

令和6年12月 第1回 サンホーム豊田 地域連携推進会議 報告

日時：令和6年12月17日（火）

14：00～16：00

場所：多目的ホール

参加者：

女性利用者 A 様（利用者）

男性利用者 B 様（利用者）

戸嶋 静子 様（利用者家族）

安藤 敏市 様（美里地区民生委員）

成瀬 友昭 様（小原寮長）

伊達 彩乃 様（豊田市障害福祉課）

田中 慎也（施設長）

坪井 高士（支援課長）

宮尾 優（サービス管理責任者）

高橋 摩朱（相談員）

(1) 開会挨拶

今年からの規定で決まった会議で、規定のもと1度集ってみようということで皆様にはお越しいただきました。ありがとうございます。

利用者参加も規定で決まっておりますので、今回入居利用者も出席いたします。

初めてのことで一生懸命行っていきますので、よろしくお願いいたします。

(2) 出席者紹介

(3) 議題

<施設・サービスの透明性、質の確保について>

※先にパワーポイントを使用しての施設説明

（田中施設長）

入浴については最低週2日の義務付けがありますがサンホーム豊田では水曜日の職員会議の曜日以外の週6日入浴していただいています。やはり私達でもほぼ毎日入浴していると思いますので、必要生活水準を守るためにも対応をしています。

・利用者の日常生活の様子について

<質疑応答>

（田中施設長）

設立して25年だが法律も様々で段階的に変わっているが十分ではない。それに伴って支援の仕方も変わって行って、重度者に対する支援についても手厚くなってきている。

毎日模索し続けている。応えは1つではないという考えで行っている。

スヌーズレンルームも「これを導入することで何か変わるのではないか」と考えのもと導入したが当然ハマる人とハマらない人がいる。

年間行事も季節を大事にする、まずは皆さんに楽しんでいただきたいという思いが強い。

感染症によって行事も無くなったりずれてしまうことがある。感染症は起きないのが前提ですが、どうしても集団生活の場で防ぎようのない場面もある。しかしこのような経験から職員の感染者に対する対応等は実体験として学ぶことができた。

(戸嶋会長)

楽しく過ごしているようなので、今のままやっていたいただければと思っております

(成瀬施設長)

・高齢分野にいましたので、高齢施設での感染は怖かった。1割の方が亡くなる。戦々恐々としていた。障害者施設は死者いないのでそこは強み。お祭りもできないのがネックだったがそれで制限してしまうと、なぜ生きているのかと思ってしまうようになったため、今年度より外出の機会を戻すようにしている。

・スヌーズレンルームはいつから導入されましたか？

(坪井課長)

スヌーズレンルームの導入は7～8年前

コロニーや養楽福祉会、はるひ荘もスヌーズレンルームを活用している。サンホームのスヌーズレンは1～2名しか使えないため予算で多目的ホールをスヌーズレンルームとして活用できないか検討している。

重度の方が所属している感覚クラブの時間でも活用したい。普段座ってられない方でも、部屋を暗くしてみたりヒーリングを導入すると落ち着いていられる方が多数いる。ポールを抱き抱えるのが好きな方もいる。

(田中施設長)

スピーカーも良い物に変えてみようかと検討している。スヌーズレンルームはハマる人ハマらない人がいるがスピーカーに関しては良いものにすれば、行事や他事でも使用できるので設置する価値はあると思っている。

(田中施設長)

吉井さんは何か要望はありますか？

(A 利用者)

畑をしたい。

(坪井課長)

グラウンドで小規模で行っていますがどうしても本格的となると害獣問題も出てきてしまう。

(安藤様)

畑を持っていて遊ばせている人がいるので紹介しても良いですよ。

元気で居続けるにはよく動くことと歌うこと。元気でいれば畑もできるよ。

・BCP（事業継続計画）の策定状況について

<質疑応答>

（田中施設長）

指揮者の役職は皆市街であり、サンホーム豊田に来るまでに2～3日はかかる。そのため指揮者不在時、誰でもが対応できるようにするにはどうしたら良いか、詰めていけないといけないと思っている。年2回BCP会議を開催しているが集まった人数でどのように行動していくべきか考えるのが課題である

（伊達様）

法人主導で作っているところが多い、皆が生き残った前提で作られているもので、結局上の方だけで作られた計画案だと、実際に近くに集まれる職員がどうしたら良いかわかっていないのは現実。

まずは生き残ってください、ボランティア受け入れの体制を整えるようにしてくださいと市役所としての願いとしてあります

（田中施設長）

サンホーム豊田はまだ災害マップを見ると水没や土砂災害になる可能性はないが準備万全しておかなければならない。

（安藤様）

10年前久澄橋が渡れないこともあった。あと十数センチで矢作川が氾濫するところであった。地震以外でも大雨でもそのようなことになることを念頭に置いておいてほしい

（伊達様）

矢作川西側が氾濫した場合、豊田市役所は豊田市博物館もしくは発達センターに事務所を移動させる想定でいる。

（田中施設長）

感染症でクラスターになったときも思ったが、障害者施設は法人内で応援要請したくても高齢施設がメインになっているので、対応が分からない。

そのためクラスターになった際も要請はしていない。

（伊達様）

能登半島地震でも経験したように、受援体制を検討いただけると良い。

（田中施設長）

ただ環境が変わることで利用者さんが混乱したりと問題は多々ある

想定としてできるのは、実習生の受け入れを毎年40～50名の受け入れをしているため、ここで場慣れをしていただけようようにしている。

女性は実習生慣れしているので女性利用者は実習生などの他者が対応しても大丈夫だが、男性利用者への支援となると課題がある。

（成瀬施設長）

能登半島地震の際、2名の障害者受け入れしましたが、現場は大丈夫でも病院や請求など事務的なところが滞ったため、どうしたら良いのか未だに疑問点である

<施設と地域との連携>

- ・近隣からの苦情について
- ・地域との連携

(田中施設長)

今年に入って高橋を中心として販売販路が広がっている。今年だけで20か所ほど販売に行った。販路が広がるのは良いが作品数の追いつきと質の部分で課題が出てきた

<利用者の権利擁護>

- ・虐待、事故、ヒヤリハットの報告

(田中施設長)

高齢施設から来た経緯もあって、転倒で外傷がなくてもヒヤリハット扱いだっただのが疑問であった。もしかしたら骨折に繋がるような転倒かもしれないため境界線を検討し直して事故として挙げるようになった。

ショートステイの紛失も本人の財産を失くすということで、軽くみないようにしている。

(戸嶋会長)

転倒は歳だから機能低下だと思っている。保護者の方はそこまで重く考えていないが、施設の取り組みはありがたいと思って聞いている。

(田中施設長)

虐待パトロール始めて4年。小さいところから芽を摘んでいくことの大事さを提唱しているが、悪いことばかりではなく良いところも見ようよということで今年度より、職員の良い支援も見るようにした。

- ・利用者の意向アンケート調査

同性介助について活動の支援や場所移動に関しては異性で行うこともあるが、入浴、排せつ等は必ず同性介助をするようにしている。

(成瀬施設長)

人口減少していく中で人を選んでもられないとの考えから東京の施設では、倫理について勉強を行い1～3級の1級をとれた職員のみ異性介助をするという同意書をいただくというのを行っている。

<その他質疑応答>

(安藤様)

今日お話を聞けて施設の取り組みや頑張りを知れてよかった。

災害のときなど地域と協力していけるように我々も力をいれていきますので、よろしく願いいたします。

(4) 閉会挨拶